

「入管の民族差別・人権侵害と闘う全国市民連合」

への参加の呼びかけ

2021年11月22日

2021年3月6日、名古屋入管で33歳のスリランカ人女性・ウィシュマ・サンダマリさんが亡くなりました。長期収容の中で、飲食が困難になり、尿検査の結果、体が飢餓状態に陥っていたことが判明していたのに、点滴などの治療を受けることもなく、見殺しにされたのです。遺族が来日して、真相究明を求めても、入管は対応せず、8月10日には、入管の責任を否定し、事件を医療体制の問題に矮小化する調査報告書を出しました。

私たちは、ウィシュマさんの死亡事件の真相究明を求める学生・市民の会を結成して、8月13日と10月1日に、真相究明とウィシュマさんの死亡前2週間のビデオの開示などを求める署名約9万3148筆の署名を入管庁に提出し、9月25日には、全国9か所で約450人のデモなどのアクションを行いました。

ウィシュマさんの事件は、入管が外国人の命と人権を顧みず、強制送還することだけを重視していることを明らかにしました。司法の監督・審査を一切受けることのない全件収容主義、無期限収容及び強大な裁量権を骨格とする戦後入管体制が、この事件を引き起こしたのです。この戦後入管体制の背景には、民族差別に根差した入管政策があります。かつて日本が植民地を求めて侵略戦争を行い、アジアの人々を支配し、差別・抑圧したことを戦後入管体制は引き継いでいます。外国人を敵視し、徹底して管理・抑圧するこの戦後入管体制を根本から変えなければなりません。

入管は、ウィシュマさんの事件を通じて何も反省をせず、今まで通り、強制送還一本やりの政策を維持しようとしています。そして、学生・市民の反対運動の力で廃案に追い込まれた入管法改悪法案を、再び提出して、入管の権限を更に強化して、自らの地位を更に強固なものにしようとしています。

私たちは、二度とウィシュマさんのような事件を起こさないために、この事件の真相究明を進めます。そして、来年に提出されるであろう入管法改悪法案を廃案に追い込みたいと思います。そして、在留特別許可基準の大幅緩和、国際基準に基づいた難民受け入れ、強制送還一本やり方針の転換を求めていきます。

こうした取り組みを通じて、入管の民族差別・人権侵害と闘う市民の運動を

作り上げ、入管政策を根本から変える力を作り上げていきましょう。

入管問題に取り組む全国の団体、個人に、「入管の民族差別・人権侵害と闘う全国市民連合」への参加を呼びかけます。

呼びかけ団体・個人

ウィシュマさんの死亡事件の真相究明を求める学生・市民の会

BOND 外国人労働者・難民と共に歩む会

START 外国人労働者・難民と共に歩む会

TRY 外国人労働者・難民と共に歩む会

難民支援・研究団体 P A S T E L

W I T H (旧名・西日本入管センターを考える会)

AWC youth (アジア共同行動関西青年部)

難民支援コーディネーターズ関西

Save Immigrants Osaka

仮放免者の会 (関東)

仮放免者の会 (東海)

日本労働評議会

全国学生評議会連合

弁護士 指宿 昭一

「入管の民族差別・人権侵害と闘う全国市民連合」結成大会

日時 2021年12月11日(土) 14時～16時30分

場所(開催方法) 東京の会場+ZOOM

入会希望の団体・個人は、下記フォームから申し込みをお願いします。

入管の民族差別・人権侵害と闘う全国市民連合参加申し込みフォーム

<https://forms.gle/yVhdG9ywAps5JmKZ8>

連絡先 弁護士 指宿 昭一

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目28番19号

高田馬場トーシンビル4階 暁法律事務所

電話 03-6427-5902

ファックス 03-6427-5903

メール <info@ak-law.org>